

生坂村上下水道運営委員会要旨

1. 日 時 令和2年1月24日（金）午前10時00分から
2. 場 所 生坂村役場 第3会議室
3. 出席者 吉澤弘迪・字引文威（村議会議員）
山崎智吉・丸山勝治郎・柳澤辰彦・荻久保幸男・山本優・岩間康雄
（給水区域区長）
藤澤泰彦（村長）中山茂也（振興課長）坂爪浩之（建設係長）
小山淳也（建設係主任・上下水道担当）

4. 協議事項

- (1) 令和元年度簡易水道事業の運営状況及び令和2年度簡易水道事業の運営について

説明内容

令和元年12月現在の給水人口は1,630名で、年間の給水量は136,870tである。また、安曇野市・大町市からの分水料金は総額で約19,816千円となる見込み。なお、全体の有収率は61.5%で昨年比+0.3%である。水道管の破裂は減少したが各家庭への給水管の漏水が数件確認され、今後は本管だけではなく給水管についても細かく調査する必要がある。

水質検査の結果は毎月1回村内2箇所にて採水し検査を実施しているが、いずれも異常は見られず水道法の水質基準に適合している。

令和2年度については、配水池不断水清掃点検事業、牛沢ポンプ室のポンプ及び電動弁の取替工事、宇留賀区配水管布設替工事、やまなみ荘前・関屋地区配水管布設替工事等を予定している。

委員からの質問意見

Q. 上生坂の配水管布設替工事について、上生坂第1配水池の流量計の数値を昨年と比較することで工事の成果を確認できるのではないかと。

A. 上生坂第1配水池は上生坂区のほかに、下生坂、大日向、草尾、梶本へ配水しているため、上生坂区だけの流量は確認できない。

Q. 安曇野市受水分と大町市受水分の有収率をそれぞれ算出できないかと。

A. 分けて算出することは可能である。

Q. 来年度の事業計画は、大町市系統の工事が予定されている。有収率を分けて出した場合、仮に安曇野市系統の方が低いとなれば、重点的に工事を行う必要がある。優先順位をつけて進めることを考えなければならないのではないかと。

A. もちろんそのことについては考えている。今年度上生坂の工事を実施したのは漏水調査の結果により、漏水箇所がある程度特定できていたからである。全体の有収率としては0.3%しか改善できていないが、こうした工事を徐々に進めることで将来的な有収率の向上につなげたい。

Q. 緊急的な補修だけではなく、管路の更新計画を立てるべきではないか。

A. 更新計画を立てる必要性は認識している。来年度から実施したいところだが、水道施設台帳の作成期限が迫っており、予算的にも時間的にもなかなか難しい。

Q. 地区水道の統合に向けた進捗状況は。布設ルートはどのようにするのか。

A. 雲根～宇留賀間の橋梁への水道管添架工事は完成している。さぎの平～込地間の橋梁への水道管添架工事も7月までに終わらせる予定。布設ルートは複数考えられるため、専門家に相談しながら進めていく。

(2) 令和元年度下水道事業の運営状況及び令和2年度下水道事業の運営について

説明内容

令和元年12月現在の水洗化率は村全体で83.1%、農業集落排水地域が90.4%、合併処理浄化槽地域が75.6%である。農業集落排水地域は新規の接続があり昨年比+0.4%、合併処理浄化槽地域については昨年比+1.0%である。

修繕については、農業集落排水処理施設において非常通報装置更新工事が完了し、汚泥引抜ポンプ取替工事を3月までに実施する。合併処理浄化槽は保守点検に併せてブローの修理・交換を実施した。

令和2年度については、国庫補助金を活用し、農業集落排水処理施設3カ所と管路の機能診断調査を行う予定。

委員からの質問意見

Q. 農業集落排水未接続の家庭から出た雑排水が水田に流入している。村から接続するよう促してもらえないか。

A. 接続してもらおうよう引き続き啓発を行う。しかし、工事費が高額であること、後継者がいない等の理由で接続に消極的な世帯が多い。

Q. 浄化槽の処理水の放流先が農業用の水路につながっている家庭がある。浄化槽から出た冷水が稲の生育に悪影響を及ぼすほか、水路の先が泥の堆積しやすい形状になっており、水路が詰まると浄化槽も詰まるため困っている。

A. 水路の改修が必要と考えられる。現場を確認して対策を検討する。

5. その他

事務局から突然の湧水などを発見したら連絡をいただくよう各区長へ依頼。